

JPA 日本光線力学学会 *NEWS LETTER* NO.32 APR. 2025



Contents

- 大会後記 LASER WEEK V in Kyoto, 第 34 回日本光線力学学会 …2 ページ
- 今後の学術講演会開催予定・関連学会開催予定 …3 ～ 4 ページ
- Topics 膀胱癌における ALA-PDD の用法変更について
福原 秀雄
井上 啓史 … 6 ～ 7 ページ
- Topics 新委員長の抱負 …8 ～ 12 ページ
- 学会役員 学会開催歴・開催予定 …13 ～ 14 ページ
- 編集後記 福原 秀雄 …15 ページ
- 事務局からのお知らせ …16 ～ 17 ページ
- 広告 …18 ～ 20 ページ

大会後記

LASER WEEK V in Kyoto, 第 34 回日本光線力学学会

秋元 治朗

第 34 回日本光線力学学会会長

(総合病院厚生中央病院 副院長・脳神経外科部長

東京医科大学脳神経外科学分野 客員教授)

この度、第 34 回日本光線力学学会学術講演会を 2024 年 11 月 9-10 日の 2 日間、快晴のもとに京都大学 100 周年時計台記念館ほかにて開催させていただきました。本会は Laser Week V in Kyoto として、第 45 回日本レーザー医学会総会(武藤学会長)、第 20 回日本脳神経外科光線力学学会(篠山隆司会長)との共催にて行なっております。

私は第 1 回 Laser Week in Tokyo に脳神経外科学会の会長として参画させていただいており、レーザー関連学会の合同開催の意義を実感しておりました。3 年前に本学会の会長を任命していただく光栄に恵まれた直後より、ぜひ再び Laser Week として 3 学会で共催させていただきたく考えておりました。他 2 学会は未だ会長が決定しておりませんでしたので、私は PDT 関連で親しくさせて頂いておる、武藤教授、篠山教授に声がけさせていただき、Laser Week in Kyoto の実現に至った次第であります。結果的に 3 学会会長ともが PDT 専門家であることとなり、学会主題およびその内容がやや偏重してしまったことをお詫び申し上げます。

学会の総合テーマは「多様化するレーザー医学・医療の検証と未来予想図」とさせていただきました。レーザー医療に関わるすべての医療関係者が一堂に京都大学に集まり、2 日間に亘ってレーザー医学の基礎的・臨床的研究の現状と未来を熱く語っていただける会とすべく、1 年前から 3 学会の会長、事務局長および事務局運営企業が、週 1 回 Zoom で議論を重ねて参りました。Laser Week 成功のために、全員が一枚岩となって熱く語り合った次第です。結果的に 3 学会合同特別講演 3 題、3 学会合同シンポジウム 5 セッション、脳神経外科光線力学学会との合同シンポジウム 1 セッションを主軸とし、多くの一般演題の登録をいただきました。特別講演においては、厚労省医政局の鶴田真也氏に「最近の医療政策の動向」について御講演いただき、中々聞けない規制側の本音を拝聴いたしました。「光免疫療法」の第一人者である NIH の小林久隆先生におかれましては、母校である京都大学での開催を大変喜ばれ、フランクながらも情熱に溢れた御講演をいただきました。中医協の費用対効果検討委員長である東京大学医療経済政策学の田倉智之先生には「日本の医療の未来予想図」と題して、日本の医療経済の現状を踏まえた医療の選別の重要性を語っていただきました。いずれの御講演においても会員から多くの質問が寄せられたとともに、その内容を賞賛される意見を多くいただきました。改めてすべての講演者に紙面を借りて深謝させていただきます。

奇しくも 11 月の京都開催とのことで、著明なインバウンド需要に伴うホテル価格の高騰や交通の不具合が危惧されましたが、ご参加された 500 名を超える先生方からは、学問を議論するにふさわしい荘厳な会場での開催や、誠実な学会運営、華美になり過ぎない情報交換会など、賛辞のお言葉を多数いただきました。会の終了が日曜の夕方であったこともあり、残念ながら 3 学会会長での祝杯は叶いませんでした。語り継がれる Laser Week にできたのではないかと自負しております。

最後になりますが、伝統ある本学会の会長に指名いただきました、JPA 理事長の古川欣也先生はじめ、理事の諸先生に深謝申し上げます。また、学会の運営にあたり御尽力いただいた事務局の先生方および JTB の方々に心からの御礼を致します。次回は Laser Week VI in Tokyo です。再び皆様と熱く語り合えることを楽しみにしております。ありがとうございました。

今後の学術講演会開催予定

敬称略

◆第 35 回日本光線力学学会学術講演会

大 会 長：矢野 友規（国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科 科長
/ 内視鏡センター長）

会 期：2025 年 11 月 23 日（日）、11 月 24 日（月・祝）

会 場：東京慈恵会医科大学 大学 1 号館

・Laser Week VI in Tokyo として、日本レーザー医学会、日本脳神経外科光線力学学会の 3 学会合同で開催予定

◆第 36 回 日本光線力学学会学術講演会

大 会 長：井上 啓史（高知大学 医学部長 / 高知大学医学部泌尿器科学講座 教授）

会 期：2026 年 5 月 22 日（金）、5 月 23 日（土）

会 場：高知大学

関連学会開催予定

◆ ASLMS 2025 Annual Conference

会 期：2025 年 4 月 24 - 26 日

場 所：米国、フロリダ州オーランド

ホームページ：<https://www.aslms.org/for-professionals/annual-conference>

◆ International Photodynamic Association, 19th World Congress

会 期：2025 年 6 月 10 - 16 日

場 所：中国、上海国際会議センター

ホームページ：<https://www.ipa-2025.com/>

◆ International Photodynamic Association, 20th World Congress

会 期：2027 年 summer

場 所：トルコ、イスタンブール

詳 細：近日公開

◆ 化学放射線療法又は放射線療法後の局所遺残再発食道癌患者に対する 光線力学的療法（PDT）講習会

共 催：日本光線力学学会ガイドライン委員会局所遺残再発食道癌ワーキンググループ
日本レーザー医学会、日本食道学会、Meiji Seika ファルマ株式会社

日 時：2025 年 6 月 25 日（水）19:00 ~ 20:30

会 場：TKP ガーデンシティ京都タワーホテルカンファレンスルーム 5B+ 5C
（会場詳細については Web 講習終了後にご案内があります。）

受 講 料：無料

司 会：山本佳宣（兵庫県がんセンター）

ホームページ：<https://e-mailer.link/100216235422>

◆第 77 回西日本泌尿器科学会総会

The 77th Annual Meeting of West Japan Urological Association

テ ー マ : 百科繚乱～泌尿器科維新～

会 長 : 井 上 啓史 (高知大学医学部 泌尿器科学講座 教授、高知大学 医学部長)

会 期 : 2025 年 11 月 13 日 (木) ～ 16 日 (日) ※ 16 日は、市民公開講座を予定

会 場 : 高知県立県民文化ホール、ザ・クラウンパレス新阪急高知

運営事務局 : 株式会社キョードープラス 内

TEL : 086-250-7681 、 E-mail: wjua2025@kwcs.jp

◆ IPA2025 上海のお知らせ

2025 年 6 月 10 日～ 6 月 16 日まで、上海の Xiuli Wang 教授を会長として第 19 回 IPA が開催されます。この会議は、基礎研究、臨床応用、Translational Medicine のバランスを取りながら、20 を超える専門セッションで構成されています。セッションでは、皮膚科、婦人科、呼吸器科、口腔および鼻咽頭疾患、脳、頭頸部疾患、消化器科、泌尿器科、免疫学、腫瘍学、光熱療法、抗菌 PDT/ 感染症、PDT 線量測定および組織内送達、新しい PDT 活性化源、新しい光増感剤および Nanotechnology、耐性克服のための光力学的 Priming and Targeting、ROS および明示的線量測定、および Global Health および Low-Cost PDT など、幅広いトピックが取り上げられます。日本からは、第 34 回 JPA 会長を務められた脳神経外科の秋元治朗先生が Plenary Lecture を担当なさいます。呼吸器領域では、古川欣也理事長が演題登録されています。婦人科領域のセッションでは、私自身も演題登録し、浜松医科大学の村上浩雄先生、関西医科大学の北正人先生にも演題登録のご協力をいただきました。

演題登録は 3 月 31 日で締め切られましたが、PDD、PDT、PACT、PIT 等に関する研究を行っておられる JPA の基礎や臨床の先生方に、IPA2025 参加登録に関するご協力をお願いしたいと考えます。ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

Official Congress Website: <https://www.ipa-2025.com>Registration Portal: <https://ipa2025.sciconf.cn/en/user/login/25326>.

坂本 優

(IPA 理事、JPA 理事)

(杏雲堂病院顧問／婦人科)

◆お知らせ

第 35 回「医のこころ対談」が 2025 年 4 月 10 日に行われましたので、近日ホームページ上で公開いたします。

内 容 : 「肺がん治療の未来を切り拓く PDT」

司 会 : 古川欣也 (日本光線力学学会理事長)

ゲ ス ト : 土田敬明 (国立がん研究センター中央病院 内視鏡科呼吸器内視鏡医長)

LASER WEEK

in Tokyo 2025

VI

希望の光、レーザー医学・光線力学の進歩と挑戦

2025.11.22(土) – 24(月・祝)

※講演プログラムは22日(土)午後より

東京慈恵会医科大学 大学1号館

第46回
日本レーザー医学会総会

会 長 坂本 優

(公益財団法人 佐々木研究所附属杏雲堂病院 顧問/婦人科
東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 客員教授)

副会長 大城 貴史

(大城クリニック 院長 / 日本レーザー医学会 副理事長)

朝比奈 昭彦

(東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 主任教授)

第35回
日本光線力学学会学術講演会

会 長 矢野 友規

(国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科 科長)

第21回
日本脳神経外科光線力学学会

会 長 鰐淵 昌彦

(大阪医科薬科大学 脳神経外科学教室 教授)



演題募集期間：2025年5月20日(火)正午～7月10日(木)正午

運営事務局：株式会社 学会サービス 〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7-3-101 TEL: 03-3496-6950 E-mail: laser2025@gakkai.co.jp

Topics

膀胱癌における ALA-PDD の用法変更について

福原 秀雄

井上 啓史

(高知大学医学部泌尿器科学講座、光線医療センター)

本邦において、5-アミノレブリン酸塩酸塩 (ALA) は 2017 年 12 月から筋層非浸潤性膀胱癌 (NMIBC) の経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT) における術中の光力学診断 (PDD) に対して保険適応となり、実臨床で利用可能となった。ALA-PDD は、膀胱癌診療において病変の正確な診断に必須のものである。具体的には、これまで視認困難であった微小病変や平坦型癌病変が赤色蛍光発光を示し可視化可能となる。また、TURBT の切除マージンを決定するのにも非常に有用である。

日本泌尿器科学会から発刊される 2019 年版の膀胱癌診療ガイドラインにおいて、膀胱癌の診断に腫瘍可視化技術 (PDD、narrow band imaging; NBI) の使用は推奨されている。また、筋層非浸潤性膀胱癌 (NMIBC) の治療の際は、PDD は膀胱再発率の低下につながる事から推奨され、“推奨の強さ; 1”と規定されている。NBI は、癌検出率を改善させるが、膀胱再発率の低下につながるかは未確定であり、“推奨の強さ; 2”と規定されている。このように、PDD-TURBT は、診断のみならず術後の再発を減少させる治療効果も認め、NMIBC に対する ALA-PDD の有効性は既に確立されている。

本邦におけるアラグリオ適正使用法は、アラグリオ内服後 3 時間 (2 時間—4 時間) の PDD 実施と規定されている。しかしながら、臨床的な問題点としては、アラグリオ内服後 2 時間の範囲での TURBT 実施は、手術を行う上で、制約が大きかった。泌尿器において、ロボット手術、腹腔手術、複数の TURB の実施を同日に行うにあたり、2 時間の範囲での PDD-TURBT 実施は、スケジュールの組み立てに苦慮し、制限されることが多かった。特に、日本での適正使用ガイドでは、アラグリオ内服後 4 時間以上たっている場合に、PDD-TURBT の実施は推奨されていなかった。

我々の 76 症例におけるアラグリオ内服後の時間に関する Real world data の報告では、診断精度は、PDD 群の WL (白色光) と FL (赤色蛍光) の診断精度は、内服後 4 時間以上でも感度 96.8% で、内服 2-4 時間後の診断精度 90.0% と同等であった [1]。

ALA内服後 時間	患者数	FL(+)/All(+)	感度(%) (95% CI)	FL(-)/All(-)	特異度(%) (95% CI)	全病変数/人 Mean±SE	全CIS/人 Mean±SE
2~3時間	22	42/49	85.7 (73.3-92.9)	62/103	60.2 (50.5-69.1)	1.91±0.36	0.18±0.15
3~4時間	38	72/80	90.0 (81.5-94.8)	87/144	60.4 (52.3-68.0)	1.89±0.27	0.39±0.15
4時間以上	15	30/31	96.8 (83.3-99.4)	34/54	63.0 (49.6-74.6)	2.00±0.53	1.07±0.53
P-value		0.2992 ¹⁾		0.936723 ¹⁾		0.979974 ²⁾	0.0779319 ²⁾

田岡らの前向き試験では、ALA 内服後時間延長 (4-8 時間) の前向き研究の検討において、全 145 症例の ALA-PDD の感度は 95.3%、特異度 52.5%、white light 診断での感度 61.1%、特異度 95.2% と、ALA-PDD で感度が有意に優れていたと報告した [2]。内服後時間延長 (4-8h) においても、従来の用法 (TURBT の 2~4 時間前経口投与) と同等の感度が示された。安全性に関しては、従来の用法時と同様であり、安全性も忍容できるものであった。

Sensitivity							
Pathological positive	BL			WL			<i>P</i> -value
	Test		% (95% CI)	Test		% (95% CI)	
337	Positive	321	95.3 (92.4–97.3)	Positive	206	61.1 (55.7–66.4)	<0.001 ^a
	Negative	16		Negative	131		
Specificity							
Pathological negative	BL			WL			
	Test		% (95% CI)	Test		% (95% CI)	
905	Negative	477	52.7 (49.4–56.0)	Negative	862	95.2 (93.7–96.5)	<0.001 ^a
	Positive	428		Positive	43		

これら報告に基づいて、2024 年 12 月に用法変更が承認された。アラグリオは、「通常、成人には、アミノレブリン酸塩酸塩として 20 mg/kg を、膀胱鏡挿入 2～8 時間前に、水に溶解して経口投与する」と添付文書が改訂された。このアラグリオ内服後の PDD-TURBT 実施までの時間が 8 時間まで延長がなされることで、より多くの膀胱癌患者に対して PDD-TURBT の恩恵を受ける事が期待される。

(参考文献)

1. Yamamoto S, Fukuhara H, Karashima T, Inoue K: Real-world experience with 5-aminolevulinic acid for the photodynamic diagnosis of bladder cancer: Diagnostic accuracy and safety. Photodiagnosis Photodyn Ther 32:101999, 2020.
2. Taoka R, Fukuhara H, Miyake M, Kobayashi K, Ikeda A, Kanao K, Komai Y, Fujiwara R, Sato Y, Sugimoto M, Tsuzuki T, Fujimoto K, Inoue K, Oya M. Effect of extending the period from oral administration of 5-aminolevulinic acid hydrochloride to photodynamic diagnosis during transurethral resection for non-muscle invasive bladder cancer on diagnostic accuracy and safety: a single-arm multicenter phase III trial. Int J Clin Oncol 30:110-120, 2025.

Topics



ご挨拶

理事長 古川 欣也

日本光線力学学会は、昨年 12 月 9 日のウェブによる新理事会にて新たな体制が承認されました。引き続き私が理事長を拝命いたしましたので、微力ながら会員の皆様のご協力ご支援をいただきながら当学会の発展のために尽力していきたいと存じます。理事は、荒井恒憲先生、黒岩敏彦先生、(故) 栗津邦男先生が退任され名誉会員に就任されましたので、新任理事として磯本一先生、小川恵美悠先生をお迎えしました。

当学会は、1986 年に創設された国際光線力学学会 (International Photodynamic Association: IPA) の日本支部会 (Japan Chapter of IPA: JCIPA) として 1991 年に発足しました。2001 年に日本光線力学学会 (The Japan Photodynamic Association: JPA) に名称変更し、2022 年には一般社団法人となり長年に渡り PDD/PDT の基礎研究・臨床応用活動を継続し社会に貢献してきましたが、現在多くの課題が山積していることも事実です。学会発表における倫理面や規約の整備、学会の活性化に必要な人材の発掘、基礎の先生方のトランスレーショナルリサーチの推進やレーザー医療安全の確立などです。また、分散している各領域別研究会・学会の連携を強化して全体の存在意義を高め、PDD/PDT の有効性を多くの医療者、患者様に認知していただき、その普及を図っていく必要があります。Covid-19 パンデミックで一時的に断ち切れた国際交流を再開し、本邦での素晴らしい研究成果・臨床成績を海外へ発信していくことも重要な事項と考えます。ここ数年、賛助会員の応募により収入の改善を図ることができましたが、当学会の財政基盤の更なる安定化を図るためには、基礎研究、臨床研究、臨床応用の更なる展開による会員数増加が必要です。理事や評議員の役職の先生方におかれましては、是非とも新しい先生を会員に勧誘していただければ幸いです。

現在 10 の委員会で学会活動を行っていますが、安全委員会委員長の荒井恒憲先生が退任しましたので、新規に佐藤俊一先生にご就任いただきました。その他の委員会は前期の委員長の先生方に継続をお願いしました。各委員長の先生方にはご指名いただきました委員の先生方と共に活発な活動を期待しています。今回、各委員長に新たな抱負を語っていただきましたので、お読みいただきたく存じます。これからも年 1 回の学術集会での最新知見の共有と年 2 回のニュースレター発行により会員の皆様に新しい情報をお届けし、PDD/PDT の活性化に努めていく所存ですので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

新年度の抱負



規約委員長 小倉 俊一郎

(東京科学大学 生命理工学院 准教授)

日本光線力学学会の規約委員長を拝命している東京科学大学生命理工学院の小倉と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。規約委員会では学会の規則である規約を取り扱う委員会であり、大変な重責と考えております。私自身は光線力学における基礎を担当する研究者です。本学会は基礎から応用研究、臨床研究、さらには産学連携を基盤とした研究など大変多岐にわたる研究を後押しする任務があると考えられます。それらの研究者の交流がしやすい規約づくりに励んでまいろうと考えております。そのためには皆様のご協力が不可欠と存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

Topics



ガイドライン委員長を拝命して

ガイドライン委員長 白田実男

(日本医科大学 大学院医学研究科呼吸器外科学分野 大学院教授)

この度、2期目のガイドライン委員長を拝命いたしました。何卒、宜しくお願い申し上げます。診療ガイドラインは、科学的根拠に基づき、系統的な手法により作成された推奨を含む文章で、Minds (Medical Information Distribution Service) 方式による作成が広がっています。しかし、光線力学的治療・診断 (PDT・PDD) に関する臨床試験では、エビデンスレベルの高い第 III 相試験の実施が大変困難です。そのため、Minds 形式のガイドラインではなく、診療指針などを作成し、多くの患者さん、医療従事者に周知していくことが求められています。わが国では、PDT の適応拡大がされた領域 (悪性脳腫瘍、食道癌など) などをはじめ、現在進行中の研究もいくつかあります。PDD についても様々な臨床研究が進められております。PDT・PDD に関する貴重な治験、臨床試験を踏まえ新たな診療指針作成に向けて学会として発信したいと思ひます。

引き続き学会員の皆様のご協力が不可欠かと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。



新年度の抱負

編集委員長 井上 啓史

(高知大学医学部長、高知大学医学部泌尿器科学講座教授)

日本光線力学学会 編集委員長を務めさせていただいております高知大学医学部泌尿器科学講座 井上啓史でございます。古川欣也新理事長の下、新たな体制として再スタートしましたこの1年も、JPA 学術講演会の熱気を大会後記としてお届けし、TOPICS や特別寄稿、さらには今後の学術講演会の開催予定などの重要情報をお伝えすべく、JPA News Letter にて発信して参りました。今後も微力ではございますが、JPA News Letter を介して、PDD や PDT など光線力学技術の“今”を伝え、日本光線力学学会の発展に繋がるように努めていきたいと思ひます。今後ともにご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

効果安全性向上のための適正使用教育の重要性

教育委員長 村垣 善浩

(神戸大学大学院医学研究科 医療創成工学専攻長・教授)

光線力学的療法 (PDT) はがん集積性をもつ光化学物質とがんと周辺部への半導体レーザー照射によるダブルターゲティング治療である。タラポルフィリン投与から一定時間後のレーザー照射そして光過敏症対策といった、従来の治療法には求められない特殊な管理が必要である。そのため医師主導治験で適応拡大となった原発性悪性脳腫瘍では、低リスクの社会実装のため保険適応の施設認定にトレーニングコース修了を義務づけた。再発食道がんも同様にトレーニングが求められ、日本レーザー医学会の指導の下、日本脳神経外科光線力学学会と日本光線力学学会が PDT 講習会を行っている。

本学会教育委員会においても、リアルワールドの効果や合併症の情報収集を行い、実施しているトレーニングコースの充実を図る。例えば悪性脳腫瘍に対する照射時の髄液排除の重要性や持続モニタリングの光線過敏症の改めでの注意等である。また、新規の適応疾患があれば対応したコースを主導する所存であり、PDT と PDD の適正使用のために講習会を中心とした教育に貢献していきたい。

Topics



倫理委員長としての 2025 年度の抱負

倫理委員長 坂本 優

((公財) 佐々木研究所附属杏雲堂病院 顧問/婦人科)

日本光線力学学会の会員の皆様、新しい年度が始まりました。昨年度までに倫理規定と COI の様式を作成しました。倫理委員会の活動を通じて、光線力学分野の研究と臨床応用における倫理的なガイドラインの重要性を改めて実感する一年でした。本年度も引き続き、皆様と共に良い研究環境を整備し、光線力学の発展に貢献できるよう努めてまいります。

2025 年度は、これまでの活動を一步進め、より実践的な倫理的枠組みの構築を目指していきます。特に、新たな光感受性薬剤や新技術の導入により、PDD、PDT や PIT の臨床応用が加速する中で、患者さんへの安全性や倫理的配慮がますます重要になります。倫理委員会としては、これらの研究に対する十分な倫理的検討を行い、透明性と信頼性を高めるためのサポートを強化していく所存です。

また、国内外の研究者との連携を深め、国際的な視点を取り入れた新しい倫理基準の策定にも取り組んでいきます。PDD、PDT や PIT に関する研究が進む中で、より多くの適応拡大が期待されますが、その過程で倫理的な障壁を越え、社会全体に貢献できる研究成果を生み出すことが、私たちの目標です。

本年度も、学会員の皆様のご支援とご協力をいただきながら、光線力学分野の発展と倫理的な責任の履行に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

安全委員長就任にあたって



安全委員長 佐藤 俊一

(防衛医科大学校名誉教授)

このたび荒井恒憲先生(慶應義塾大学名誉教授)の後任として安全委員長を拝命した佐藤俊一と申します。医療において「安全」に勝る重要なことはありません。日本が誇る光線力学治療のメイン学会において安全の責任者を務めることになり、身が引き締まる思いです。

私は工学系の人間で、慶応大学工学部の卒業研究以来約 17 年、高出力レーザーとその産業応用の研究に従事しました。1997 年に防衛医大に移籍してからは約 26 年、光・レーザー技術を基盤とした防衛医学応用研究に取り組みました。PDT・PDD は薬剤とレーザーを用いた複合医療であり、その安全に関する考察にこれらの工学的背景が役に立つと思われます。また日本レーザー医学会においては、安全教育委員会委員長を務め、日本光線力学学会の安全教育にも協力させていただきました。光線力学学会において、他学会との連携は引き続き重要かつ不可欠である一方、独自の安全に関する取り組みがどうあるべきかについて、議論を深める必要があると考えます。PDT・PDD の安全増進のための当学会の活動につき、古川欣也理事長のもと、委員の先生方と検討を進めてまいりますので、よろしくご指導・ご協力のほどお願い申し上げます。

Topics



役員選出委員会委員長に就任して

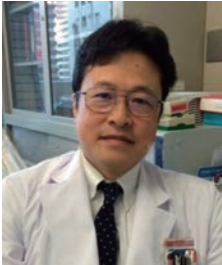
役員選出委員長 武藤 学
(京都大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座 教授)

2023 年より日本光線力学学会役員選出委員会委員長を拝命している京都大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座の武藤 学です。

本委員会は、会員等から評議員や理事の推薦があった際に、その適格性などを判断しあらたに評議員や理事にふさわしいかを判断する重要な役割を担います。

本学会は、基礎から臨床まで幅広い分野に関わる内容であるとともに、それぞれの専門領域領域も異なるため、客観的かつ公平な判断に基づき、最適な人材を選出する必要があります。また、本学会の発展のためには、評議員や理事の先生がたのご活躍が欠かせませんので、その選出にあたっては細心の配慮も必要になります。そのためにも、本委員会の役目は大きいと感じております。

本学会を盛り上げるためにも、本委員会への皆様からのご支援・ご指導が必要不可欠です。どうかよろしくお願い申し上げます。



渉外委員会委員長としての抱負

渉外委員長 秋元 治朗
(総合病院厚生中央病院 副院長・脳神経外科部長)

渉外委員長を再び拝命いたしましたことを大変光栄に存じております。会員の皆様に渉外委員会の活動に対してご満足をいただけますよう、任期を全うしたいと思います。至らぬ点も多いかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

本委員会の役割としては、本邦における光線力学的療法 (PDT) の基礎・臨床医学領域における素晴らしい業績の数々を、国内および国外へアピールし、更なる発展へと繋げることと認識しております。そのためにふさわしい委員の方々に就任して頂いております。国内においては PDT に関わる学会をはじめとした広報への協力を行い、国民に PDT という費用対効果の高い低侵襲医療を認識していただく活動を継続して参ります。国外に関しては、International Photodynamic Association (IPA) への参画を積極的に行い、本邦で開発された PDT の世界普及へ向けての礎を少しずつ固めてゆきたいと思っております。今後は IPA WORLD CONGRESS の日本開催を実現するために、会員の皆様の積極的参加を促してゆきたいと考えております。

JPA の PDT に関する活動は医学における最先端の研究であり、世界からも注目されております。渉外委員会は国内、国外への広報活動を愚直に継続し、日本の医学研究の実力をアピールしてゆきたいと考えております。

Topics



保険委員会委員長就任のご挨拶と抱負

保険委員長 土田 敬明

(国立がん研究センター中央病院内視鏡科医長)

このたび、一般社団法人日本光線力学学会保険委員会の委員長に就任し、光線力学的診断治療の保険制度に関わる重要な役割を担うこととなりました。保険委員会の使命は、光線力学的診断治療の普及を促進し、保険制度の適正な運用を提案することです。そのため、日本レーザー医学会を通じて関係機関と協力し、新規技術の保険収載や既存技術の改定を推進します。令和7年度には、令和8年診療報酬改定に向けて、日本レーザー医学会と協力し、中心型早期肺がんに対する光線力学療法（光線力学療法は、ポルフィマーナトリウムを投与した患者に対しエキシマ・ダイ・レーザー（波長 630 nm）及びYAG-OPOLレーザーを使用した場合など、保険適用された薬剤、機器を用いて行った場合に限り算定できる）の現状に即した改定を目指しております。保険委員会は、保険制度において、光線力学的診断治療が適切に行われるように、会員の皆様と協力して活動を行ってまいります。日本光線力学学会保険委員会の委員長として、会員の皆様とともに、よりよい保険制度の実現を目指していく所存です。委員長として、より良い保険制度の実現に向けて尽力してまいります。



財務委員長就任にあたって

財務委員長 奥仲 哲弥

(TOKYO FUTURE CLINIC 院長)

2001年日本光線力学学会発足から会計を担当しております。このたび、財務委員長を引き続き拝命致しました。2021年までの会計の内容は収入が会費収入約70万前後、支出が学術講演会開催準備金60万円、ニュースレター等の事務経費が8万円程度でした。学術講演会開催準備金は学術講習会会長の収支決算状況により余剰金に変換されることも多く、学会の会計は比較的健全で、毎年70万円程度の黒字決算で、2021年3月31日で前年度繰越金が約600万でありました。2022年一社日本光線力学学会の発足にあたり、財務委員会が発足しました。一社変更に伴う一時的な登記経費等に加え、学会の周知に伴う広告宣伝費に約70万円が支出予定であり、また会計士等への支払い、都民税等、今までになかった経費の発生も生じ、今後赤字会計が予想されましたが、2024年度の翌年度繰越金は861万円でありました。支出の圧縮と会費収入の増加、賛助会員からの寄付、学術集会からの余剰金の寄付など収入確保の収支改善策を理事会にご提案してまいります。特に会費の値上げは喫緊の課題と考えます。会員の先生方のご協力を切にお願い申し上げます。

日本光線力学学会 役員 (2025 年 4 月～)

*50 音順、敬称略

名誉会長	故 早田 義博								
	加藤 治文								
名誉副会長	中島 進								
名誉会員	故 會沢 勝夫	故 粟津 邦男	故 奥田 茂	故 久住 治男	故 竹村 健				
	故 平嶋 登志夫	故 南 三郎	故 三村 征四郎	故 吉田 知之					
	荒井 恒憲	伊関 洋	金子 貞男	黒岩 敏彦	小中 千守				
	斎藤 明義	阪田 功	林 潤一	平野 達	松村 明				
	松本 義也	三木 徳彦	三好 憲雄	室谷 哲弥	吉田 孝人				
特別会員	小幡 純一	川島 徳道	木村 誠	黒田 寛人					
	長崎 正継	仲里 正孝	中島 元夫	渡邊 正俊					
理事長	古川 欣也								
副理事長	武藤 学	村垣 善浩	井上 啓史						
理事	秋元 治朗	池田 徳彦	磯本 一	臼田 実男	岡崎 茂俊				
	岡本 芳晴	小川 恵美悠	奥仲 哲弥	小倉 俊一郎	尾花 明				
	片岡 洋望	坂本 優	佐藤 俊一	土田 敬明	中村 哲也				
	平川 和貴	松井 裕史	守本 祐司	矢野 友規					
監事	大崎 能伸	西脇 由朗							
会計	奥仲 哲弥								
評議員	赤須 東樹	秋元 治朗	池田 徳彦	石川 栄一	石原 立				
	磯本 一	井上 啓史	今井 健太郎	臼田 実男	浦野 泰照				
	大崎 能伸	大崎 智弘	大城 貴史	大谷 圭志	大平 達夫				
	岡 潔	岡崎 茂俊	小笠原 浩二	岡本 芳晴	小川 恵美悠				
	奥仲 哲弥	小倉 俊一郎	小澤 俊幸	小野 祥太郎	小野 裕之				
	尾花 明	片岡 洋望	金山 尚裕	金子 久恵	川内 聡子				
	北田 正博	櫛引 俊宏	工藤 勇人	黒崎 雅道	郷渡 有子				
	小林 正美	坂本 優	佐藤 俊一	鈴木 猛司	宗田 孝之				
	田中 守	近間 泰一郎	土田 敬明	中津留 誠	中村 哲也				
	中村 浩之	七島 篤志	檜原 啓之	西村 隆宏	西脇 由朗				
	西脇 雅子	平川 和貴	福田 知雄	福原 秀雄	古川 欣也				
	堀内 宏明	松井 裕史	武藤 学	村上 浩雄	村垣 善浩				
	森田 明理	守本 祐司	矢野 友規	山本 淳考					
賛助会員	株式会社インテグラル								
	SBI ファーマ株式会社								
	タカイ医科工業株式会社								
	日本化薬株式会社								
	株式会社 PhotoQ3								
	古河電気工業株式会社								
	ミズホ株式会社								
	Meiji Seika ファルマ株式会社								

敬称略

委員会

規約委員会・委員長
 ガイドライン委員会・委員長
 編集委員会・委員長
 教育委員会・委員長
 倫理委員会・委員長
 安全委員会・委員長
 役員選出委員会・委員長
 渉外委員会・委員長
 保険委員会・委員長
 財務委員会・委員長

小倉 俊一郎
 白田 実男
 井上 啓史
 村垣 善浩
 坂本 優
 佐藤 俊一
 武藤 学
 秋元 治朗
 土田 敬明
 奥仲 哲弥

日本光線力学学会 開催歴・予定

敬称略

	開催日時	大会長	開催地		開催日時	大会長	開催地
第1回	1991年10月6日	早田 義博 加藤 治文	東 京	第19回	2009年7月4日	荒井 恒憲	横 浜
第2回	1992年9月5日	中島 進	旭 川	第20回	2010年6月12-13日	三好 憲雄	福 井
第3回	1993年10月10日	奥田 茂	大 阪	第21回	2011年7月2-3日	栗津 邦男	大 阪
第4回	1994年9月3日	竹村 健	札 幌	第22回	2012年7月6-7日	松村 明	茨 城
第5回	1995年11月3日	平嶋登志夫	東 京	第23回	2013年6月7-8日	大崎 能伸	旭 川
第6回	1996年11月9日	阪田 功	岡 山	第24回	2014年6月28-29日	西脇 由朗	浜 松
第7回	1997年5月24日	西坂 剛	石 川	第25回	2015年7月10-11日	古川 欣也	東 京
第8回	1998年6月6日	三木 徳彦	大 阪	第26回	2016年6月25-26日	坂本 優	横 浜
第9回	1999年5月22日	會沢 勝夫	東 京	第27回	2017年7月14-15日	武藤 学	京 都
第10回	2000年5月20日	金子 貞男	岩見沢	第28回	2018年11月1-2日	村垣 善浩	東 京
第11回	2001年5月19日	吉田 孝人 平野 達	浜 松	第29回	2019年9月19-20日	佐藤 俊一	東 京
第12回	2002年5月25日	林 潤一	東 京	第30回	2020年10月9-10日	白田 実男	高 知 WEB
第13回	2003年3月22日	室谷 哲弥	東 京	第31回	2021年10月22-23日	松井 裕史	東 京 WEB
第14回	2004年5月29-30日	南 三郎	鳥 取	第32回	2022年11月25-26日	岡本 芳晴	米 子
第15回	2005年6月11日	尾花 明	浜 松	第33回	2023年11月23-26日	片岡 洋望	東 京
第16回	2006年5月13日	奥仲 哲弥	東 京	第34回	2024年11月9-10日	秋元 治朗	京 都
第17回	2007年6月16-17日	中村 哲也	栃 木	第35回	2025年11月23-24日	矢野 友規	東 京
第18回	2008年6月14-15日	松本 義也	名古屋	第36回	2026年5月22-23日(予定)	井上 啓史	高 知

編集後記

春光うららかな季節となり、皆様にはご健勝にお過ごしのことと思います。

さて、2024年11月9日(土)～10日(日)の2日間、京都大学百周年記念ホール及び国際科学イノベーション棟におきまして、第34回日本光線力学学会学術講演会が開催されました。総合病院厚生中央病院副院長・東京医科大学脳神経外科学分野客員教授の秋元治朗先生が大会長を御務めになり、Laser Week V in Kyoto として、第45回日本レーザー医学会(京都大学、武藤学会長)、第20回日本脳神経外科光線力学学会(神戸大学、篠山隆司会長)との合同開催となりました。

Laser Week V in Kyoto では、『多様化するレーザー医学・医療の検証と未来予想図』をテーマに掲げ、レーザー医療に関わる多くの医療関係者が集まり、レーザー医学の基礎的・臨床的研究の現状と未来について多くの討論が行われました。日本光線力学学会 & 日本脳神経外科光線力学学会の合同シンポジウム「がんの Bioimaging 最前線」を中心として、多くの一般演題でも熱く議論が行われました。特別公演として、厚労省医政局の鶴田真也氏の「最近の医療政策」の御講演など、多くの企画が現地開催にて実施され、500名を超える皆様に御参加頂き、とても盛会となりました。また、Topics としては、高知大学医学部泌尿器科の福原より、「膀胱癌における ALA-PDD の用法変更について」というタイトルにて、アラグリオの用法が内服後 PDD-TURBT 実施までの時間が8時間まで延長となった事を報告しました。この事で、より多くの膀胱癌患者様が PDD-TURBT の恩恵を受ける事が期待されます。

また、古川欣也理事長をはじめとした今年度に御就任された新委員長の先生方からの抱負も頂き、ますますの日本光線力学学会の発展が期待されます。

今後も、学会員の皆様にとって有益な情報発信を行っていきますので、どうか宜しく御願い申し上げます。

副編集委員長 福原 秀雄
(高知大学医学泌尿器科学講座)



事務局からのお知らせ

◆理事会開催

令和6年9月13日（金）18時より理事会が開催されました。

理事・監事重任、新任の件、評議員重任、新任の件及び名誉会員推戴の件等が報告され、満場一致で承認可決されました。

◆決算理事会開催

令和6年10月28日（月）18時より、ZOOMにて決算理事会が開催されました。

代表理事古川欣也が議長となり、理事21名と監事2名の計23名の役員が参加、第3期（令和5年10月1日～令和6年9月30日）決算が承認されました。また第4期事業計画及び予算についての検討が行われました。他、報告事項がありました。

◆臨時理事会開催

令和6年12月9日（月）18時より、ZOOMにて令和6年第4期臨時理事会が開催されました。古川欣也理事が議長となり、理事12名、監事2名の役員が参加、古川欣也理事長の重任（再任）と各委員会委員長の重任（再任）及び安全委員会安全委員長の新任が満場一致で承認されました。その他報告事項がありました。

◆会員動向（2022.10～2025.3）

- ・会員 195 名（正会員 187 名、賛助会員 8 社）
- ・賛助会員 8 社（インテグラル、SBI ファーマ、タカイ医科工業、日本化薬、PhotoQ3、古河電気工業、ミズホ、MeijiSeika ファルマ）
- ・新規会員 37 名（賛助会員 8 社含む）増加、退会者 19 名（長期会費滞納による除籍者 9 名を含む）
- ・会費納入状況 2024 年度（2024.4～2025.3）159 名（2025 年 3 月現在）

◆日本光線力学学会ホームページ（<https://www.jpa-pdt.or.jp/>）に、

対談第1回「がん治療に期待高まる PDT」以降、以下 31 回を掲載中（敬称略）

第1回「がん治療に期待高まる PDT」（古川欣也×加藤治文）

第2回「肺がんの PDT」（臼田実男×加藤治文）

第3回「食道がんへの PDT」（武藤学×加藤治文）

第4回「脳腫瘍の PDT」（秋元治朗×加藤治文）

第5回「新しいがん治療 iTAP 法」（浜窪隆雄×加藤治文）

第6回「子宮頸部がんの PDT」（坂本優×加藤治文）

第7回「乳がんの診断治療の最前線」（山田公人×加藤治文）

第8回「リウマチ診断治療の最前線」（林淳慈×加藤治文）

第9回「人工関節置換術の最前線」（林淳慈×加藤治文）

第10回「泌尿器科領域における光線力学的診断（PDD）」（井上啓史×古川欣也）

第11回「認知症予防に関する新しい提案」（工藤佳久×加藤治文）

第12回「泌尿器疾患と排尿障害の診断治療と予防の最前線」（松本哲夫×加藤治文）

第13回「がん医療の在り方」（垣添忠生×加藤治文）

第14回「下肢の血管の病気 1）静脈瘤」（重松宏×加藤治文）

第15回「悪性脳腫瘍に対する最新の細胞医療」（赤崎安晴×加藤治文）

第16回「医療における働き方改革の課題」（高田和男×加藤治文）

第17回「脳梗塞の血管内治療」（奥村浩隆×加藤治文）

第18回「第33回日本光線力学学会学術講演会会長としての抱負と今後の新しい PDT 戦略」（片岡洋望×加藤治文）

第19回「虚血性心疾患の外科療法」（天野篤×加藤治文）

第20回「パーキンソン病」（水澤英洋×加藤治文）

第21回「糖尿病治療の最前線」（小田原雅人×加藤治文）

第22回「慢性間質性肺炎」（吉澤靖之×加藤治文）

- 第 23 回 「肺結核、診断治療の今日」 (大田健×加藤治文)
第 24 回 「肺がんの外科療法」 (宮島邦治×加藤治文)
第 25 回 「膵臓がんの外科療法 (永川裕一×加藤治文)
第 26 回 「持続可能な医療 ― 資源も命も、有限である」 (國頭英夫×加藤治文)
第 27 回 「肝臓・胆のう・膵臓外科 ― 中国での手術指導」 (高崎健×加藤治文)
第 28 回 「慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 治療の今日」 (市瀬裕一×加藤治文)
第 29 回 「血管の病気 2) 腹部大動脈瘤」 (重松宏×加藤治文)
第 30 回 「脳動脈瘤の血管内治療 ― 新技術の登場により効果的に」 (奥村浩隆×加藤治文)
第 31 回 「東洋医学 ― 名医は、病気になる前『未病』を治す」 (木原洋美×加藤治文)

◆年会費について

2025 年度 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日) の年会費 5,000 円の納入をお願いいたします。会員には、振込み用紙を同封しております。
速やかなお振込み (2025 年 9 月 30 日まで) をお願い申し上げます。
尚、10,000 円の振込票が同封されている会員は、2024 年度年会費が未納になっております。2025 年度年会費と合わせてお振込みをお願い申し上げます。

年 会 費: 2025 年度 5,000 円

(会費年度は 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日迄、会計年度は 10 月 1 日より翌年 9 月 30 日迄です)

○お振込先は下記のいずれかよりお願い申し上げます。

☆【郵便振替】振替用紙を同封

口座番号: 00150-9-371545

名 義: 日本光線力学学会

他行から振替口座にお振込みの場合

店 番: 019 店 名: 〇一九

口座番号: 当座預金口座 No. 371545

名 義: 日本光線力学学会

どちらの名義も「一般社団法人」の記載は不要です。

☆【三井住友銀行】

支 店: 浅草橋支店 店番: 614

口座番号: 普通預金口座 No. 7467418

名 義: 一般社団法人日本光線力学学会

ご不明の点は、事務局までお問い合わせ下さい。

一般社団法人 日本光線力学学会事務局 info@jpa-pdt.or.jp

〒104-0045 東京都中央区築地 3 丁目 12 番 2 号 築地高野ビル 5F

ホームページ <https://www.jpa-pdt.or.jp/>

以上







<https://www.sbipharma.co.jp/>

SBIファーマ株式会社
東京都港区六本木一丁目6番1号

RevoLiX^{HTL}

新世代のハイブリッドツリウムヤグレーザーは
結石治療と軟部組織の外科的処置を行うことが可能

Stone Management

1.3kW Peak Power Fragmentation
Superior Dusting

StopRÖK™

ホルミウムヤグと同じ設定条件で、最大94%の"Retropulsion"を抑制します。

KühleDust™

ホルミウムヤグよりもより細やかな砂状に破砕し、最適な熱緩和を可能にしたダスティング。



BPH and Soft Tissue

ThuVAP, ThuLEP, ThuVEP, ThuVaRP
Pulsed ThuLEP, UTUC, ERBT etc.

Extremely Versatile

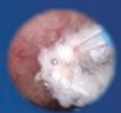
軟部組織に対して2つの照射モードを使用することができ、正確な蒸散や切除、切開が可能。

Precise Coagulation

ホルミウムヤグよりも水に吸収されやすく、組織深達度が浅いため、迅速な凝固が可能。



Pulsed Wave



Continuous Wave

150W Hybrid Thulium-YAG Laser

All-in-one for Stone fragmentation, Super Dusting and Soft Tissue Treatment



医用機器総合商社
Takai
タカイ医科工業株式会社

〔広告〕

PhotoQ3

iTAPで新しいがん治療薬を開拓する

株式会社 PhotoQ3

—治療のできない世界に光を—

Quest、Qualify、Quantify

Quest
それぞれのがんの特徴的な「顔」をプロトタイプノミクスで割り出します

Qualify
光とイムノトキシンのコンビネーションによって効果の高い治療法を提供します

Quantify
分子標的の定量的評価を行います

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学駒場IIキャンパス
駒場オーブンラボラトリー (KOL) 6 0 2 号室
TEL 03-5452-5742

Web : <https://photoq3.com/>
Contact : info@photoq3.com







HEMS plus+

MNIRC-600

4色のLED光源を搭載
蛍光カラーカメラ

3領域による波長での撮像が可能
ALAモード FLモード ICGモード

販売名: 近赤外カラーカメラシステム HEMS plus+
製造販売届出番号: 13B1X00306G11132

ミズホ株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-13
<https://www.mizuho.co.jp> 販売事業部 / 販売マーケティング部 / 販売技術部 TEL03-3815-3097 特販事業部 TEL03-4334-9111

Mizuho
Medical Innovation

200 万画素 FHD 1920×1080





The advertisement features two white Meiji PD Laser units. The unit on the left is labeled 'PDレーザー' and has a small white box connected to its side. The unit on the right is labeled 'PDレーザー BT' and has a black cable connected to its side. Both units have digital displays and control buttons on their front panels. The Meiji logo is in the top left corner.

meiji

PDT半導体レーザ
PDレーザー
<承認番号 21600BZZ00026000>

製造販売元
Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2 - 4 - 16
<https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

PDT半導体レーザ
PDレーザー BT
<承認番号 22500BZX00420000>

<文献請求先及び問い合わせ先>
Meiji Seika ファルマ株式会社 PDT事業部
〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
TEL:03-3273-5789 FAX:03-3273-5620

作成:2024.9

